

平成30年 9月

# 山下尚寛 学位論文審査要旨

主 査 今 村 武 史  
副主査 萩 野 浩  
同 永 島 英 樹

## 主論文

Effect of a cathepsin K inhibitor on arthritis and bone mineral density in ovariectomized rats with collagen-induced arthritis

(コラーゲン誘発関節炎を有する卵巣摘出ラットに対してカテプシンK阻害薬が関節炎と骨密度に及ぼす効果)

(著者：山下尚寛、萩野浩、林育太、林原雅子、谷田敦、柳樂慶太、福井亮平、永島英樹)

平成30年 Bone Reports 掲載予定

## 参考論文

1. 従来法で行うTKAにおける大腿骨コンポーネントの設置—髓内ロッドの挿入方向で設置角は改善するか?—

(著者：山下尚寛、大槻亮二、築谷康人、村上大気、岸本勇二、榎田誠、豊島良太)

平成26年 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌 39巻 706頁～710頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は卵巣を摘出した関節リウマチモデルラットを用いて、関節炎と骨粗鬆症に対するカテプシンK阻害薬の効果を検討したものである。その結果、カテプシンK阻害薬は足関節の腫脹を抑制し、関節炎スコアを低下させ、骨密度を高めることが明らかとなった。また、屠殺後のエックス線写真では骨破壊を抑制し、組織学的には滑膜炎と骨吸収を抑制していることも明らかとなった。本論文は、カテプシンK阻害薬が関節リウマチにおいて骨強度と骨密度を改善するだけでなく、関節炎と骨破壊の抑制効果も有していることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。